

校長としての学校づくりへの思い

平成23年4月1日

学校は「子どもたちの子どもたちによる子どもたちのための学びの場」であり、「夢と希望や学ぶ喜び溢れる学び舎」でありたい。

そのためには、教職員が一丸となってよりポジティブに教育に携わり、力を尽くし、知恵を出し合い、よりよい教育を創造していくことが重要であると考えます。

学校は、知識基盤社会の中で、未来に生きる子どもたちを育てる教育を担っている。

今、学校が求められていることは、確かな学力・豊かな心・健やかな体の調和のとれた人間を育成し、「生きる力」を培うことである。

この趣旨を踏まえ、教職員一人ひとりが自校の教育課程を構築するという姿勢をもち、確かな学力等の向上が期待される教育活動を**的確・迅速・誠実**に実践していくことが重要である。**追浜小学校独自の方式を創造する**ことをよりよい学校づくりのチャンスと捉え、授業力・教師力・学校力の向上を図っていかねばならない。そこで、教職員が「**フットワーク・チームワーク・ネットワーク**」を合言葉にして、**追浜小学校のもつよさや可能性をさぐり・伸ばす**ことで、子どもたち一人ひとりの学びや育ちが高まり、保護者や地域の応援団が増え、信頼される学校になっていくものと考えます。

I 教職員自身が、自ら学び、自ら考える姿勢をもち、一丸となってよりよい教育を創造していく 「授業が命」

よりよい教育を創造していくために、授業力の向上・資質向上が肝要である。

「**授業づくりを要**」として、「**こなす授業**」から「**創る授業**」への変革を図り、教職員自身が自ら学び、自ら考え、よりよい教育を創造していかねばならない。

そのためには、校内研究の充実を図り、児童と向き合い、思いや願いを知り、児童の心を揺り動かし、確かな学力・豊かな心・健やかな体を育む授業づくりの工夫に励んでいく。その過程で、外部講師の力も積極的に取り入れ、また、保護者や地域との連携及び他校との連携を図り、互いに切磋琢磨しながら授業力の向上を目指していく。

II 学校経営に全教職員が参画し、いきいきと教育活動に取り組む

「学校担任制」 「フットワーク・チームワーク」

学校経営は、教職員一人ひとりが教育課程を創りかえるという意識で、知恵を出し合い、創意に満ちた総意のもとで運営されるものとする。

新教育課程に向けて、学習指導要領を共通理解し、学校教育目標を具現化し、年間指導計画を立てて取り組んでいく。そのためには、総括教諭を中心にグループ会議を充実させ、組織的に動き、見通しをもった計画を立て、全教職員が共通理解をし、円滑に実践していく必要がある。また、トップダウン経営とボトムアップ経営の調和を図り、意見を出し合い、協働で取り組んでいく。 「一人はみんなのために、みんなは一人のために」

III 学校・保護者・地域との連携・協働、他校との交流で、 人づくり・仲間づくり・応援団づくりをしていく

「追浜方式」 「ネットワーク」

「生きる力」を育み、教育の質を高めていくためには、学校と家庭・地域の連携・協働、他校との交流が不可欠である。そこで、開かれた学校を一層推進していく必要がある。

新教育課程のもとで学校がどのような教育を進めようとしているのか発信説明し、理解や協力をお願いしていく。そして、意思疎通を図り、子どもたちを複眼で見、それぞれの持ち場でできることを考え、共に人づくりに取り組んでいく。学校は学ぶ喜び溢れる教育活動を展開し、地域の人材や素材や他校との交流を取り入れた学習プランをカリキュラムに位置づけていく。また、学校教育目標が育てたい子ども像達成の合言葉となり、保護者や地域住民の期待にも応えるものとしていく。そして、学校評価や学校公開を適宜行い、要望や期待を受け止め、反映させ、目標の実現状況を公表し、成果や課題を学校運営に活かしていく。家庭は生活習慣や学習習慣づくり、地域は住みやすい街づくりをしていく。今年度から、学校と家庭と地域とが一層連携し、児童のよりよい成長を目指した教育を進めていくために、「追浜小学校学校づくり推進委員会」が発足する。その中で、共に知恵を出し合い、よりよい教育を追究し、共によりよい教育を実践していく。